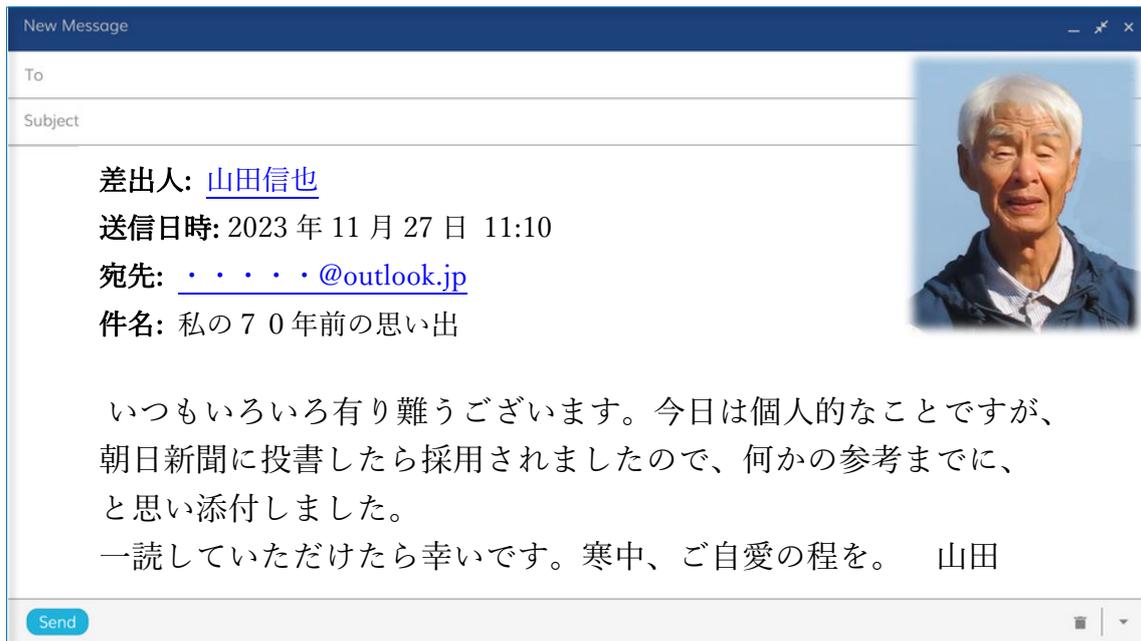


恩師 山田先生 からメールと投稿記事を送付して頂きましたので掲載します。(北辰会事務局)



享月 日 新 聞 2023年(令和5年)11月17日(金)

# 声 Voice

## 戦争反対 焼け跡での誓い今も

無職 山田 信也  
(大阪府 85)

週末版be「歴史のダイアグラム」に掲載されていた傷痕(きずあと)軍人の写真(10月28日)に、私は強烈な衝撃を受けました。私は1953年、大阪市北区の中学校を卒業しました。中学校区には天神橋6丁目交差点があり、人や車の往來の多い、繁華街でした。

当時はほぼ毎日のごとく、駅ビルの前に色あせた戦闘帽を被った白衣姿の数人が、ひとりは義足、もうひとりは義手でハーモニカを吹きながら、胸に募金箱を掛けて、足早に立ち去る人たちにお辞儀を繰り返して

税金の滞納があった場合、当局は督促状を送る。財産差し押さえは最後の手段である。一連の経費にも税金がかかっている。前副大臣は税金のプロである税理士資格を持って

めには頑張っている。内閣がごたつ。療介護の現場では題山積なことを

いました。中学生だった私たちは異様な白衣姿の人たちに、彼らが一体誰なのか想像も出来ませんでした。ある日の授業中に、ある生徒が先生に白衣の人たちのことを尋ねました。先生は「あの白衣の人たちは、戦場でオレの代わりに手足をなくした、銃弾に撃たれて戦死した仲間たちの身代わりだ」と答えました。

放課後、私たちは空襲で焼け残った小屋に集まり、先生のお話をあれこれ想像して議論しました。「傷痕軍人になりたくない」「爆弾で死にたくない」「戦争は絶対反対や」と誓い合いました。あれから70年経った今も私は誓いを守っています。



米中首脳会談

分断より協調の状